

岡本眸の秋の句

通るとき二階が開きぬ十三夜
膝抱いて顔もてあます秋の暮
卓拭いて夜を切り上げるそぞろ寒
身に入むや林の奥に日当りて
子探しに似て黄落の木より木へ

松岡隆子 抽